

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究期間・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				初期	終期			
1	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	経営管理技術及び生産・流通システムの高度化	稲作を基幹とした土地利用型農業における規模拡大方策と生産体制の確立	経営規模拡大による低コスト水田作経営体展開のための技術及び経営構造を明らかにするとともに大規模水田作のモデル経営を構築し、地域的対応方策と定着条件を解明する。	県が育成目標とする30ha規模の水田作経営体の実態調査から、経営展開過程と生産力形成要因等について解析し、その育成・定着のための経営的・技術的対応方策を検討する。	18	19	B	当初計画期間どおりに実施・完了し、研究目的とした技術課題を解決しながら、活用できる成果を公表することができた。しかし、現場で活用するには、各地域の条件を入力し、様々なモデル経営提示が必要となる。	本成果については、外部環境（燃料や肥料の価格高騰等）や内部環境（経営規模や労働力等）によって、得られる結果は様々であるので、固定された指針の策定より、使用したシステムの現場での活用を考えるべきではないか。
2	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	地域特産果樹の農業登録促進試験	地域特産果樹振興のために、本県産イチジクの病害虫の発生状況を把握し、これらに適応可能な農薬の検索と農業登録のための基礎的データの蓄積をはかる。	イチジクの病害虫の発生状況を調査し、対象病害虫に対して必要な農薬の基礎的データを蓄積し、防除体系を策定・充実させる。	18	19	A	目標が早期に達成され、イチジクの病害虫防除体系が「農作物病害虫防除指針」に掲載された。	マイナー作物としてのイチジクが新規に導入され、地域特産物として戦略的に定着しつつある。マイナー故の標準技術作りは、産地育成に不可欠な課題であり、地産地消型・すき間型産地育成におけるモデルケースとなる。2の課題とも連携して、今後の新規作物の作目選定と標準技術策定にこの経験を活かしていく必要がある。